

2024 年度総括及び 2025 年度各学部 FD 活動

学部等名	FD 活動
法学部	<p>[2024 年度 FD 活動総括]</p> <ul style="list-style-type: none"> 2024 年 10 月 3 日の教学に関する懇話会において、学生に対する「配慮」の必要性や内容について、具体的な事例を交えつつ意見交換を行った。 2025 年 1 月 16 日の教学に関する懇話会において、卒業論文の評価基準（特に学会賞、努力賞を中心に）、卒業論文の執筆者を増やす方法および指導法等について意見交換を行った。 外部 FD 研修への参加について 2025 年 3 月 1, 2 日に、1 名の法学部構成員が外部 FD 研修に参加した。 <p>[2025 年度 FD 活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> 教授会あるいは教授会終了後に開催する「教学に関する懇話会」において、学生の修学状況を把握し、指導の在り方を検討すると同時に、学習の進捗や理解度を評価する適切な方法を検討していく。
経済学部	<p>[2024 年度 FD 活動総括]</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済学部内 FD 学習会・外部 FD 研修 2024 年度は 2025 年 2 月 27 日に FD 学習会を実施した。「25 カリにおける入門演習のあり方」をテーマに開催され、参加者は 22 名であった。25 カリに向けて、情報共有と意見交換がなされることで、知見を深めることができた。また、外部の研修会等への積極的な参加を促し、1 名の参加報告がなされた。 <p>[2025 年度 FD 活動]</p> <p>経済学部内 FD 学習会を開催する。テーマは新カリキュラム導入に伴い自由に議論・意見交換することが望ましいもの（演習系科目のあり方、経済文献講読のあり方、導入教育のあり方など）から選択する。上記の内容以外にも、また FD 活動として、「人権」に関する内容についても導入の検討を進めていく。</p>
経営学部	<p>[2024 年度 FD 活動総括]</p> <ul style="list-style-type: none"> 新入生相互の交流や経営学部ガイドブックを用いたきめ細かな履修指導を中心とした新入生歓迎会（4 月 2 日開催）は、学生スタッフ（学生 FD 委員）の協力もあり、大変盛況であった。学生の視点からより満足度を高めていくことの必要性ときめ細かな履修指導を継続していくことが確認された。 第 1 回教授会（4 月 11 日開催）において、2023 年度学修成果アンケートの集計結果をもとに、両学科の現況を確認し、教学改善に向けての意見交換を行った。 2020 年度に教授会において確認された「学生の学び」において「入門ゼミ」が重要となるとの認識に基づいて 2020 年度と 2021 年度に実行した「入門ゼミ」への学部予算増額をさらに発展させて 2022 年度においては経営学部 1 年次生のみを参加対象とする文化的イベントを開催した。2023 年度においては予算上の措置を議論した上で「入門ゼミ」単位で参加するクイズ大会とドッジボール大会を開催した。2024 年度においては前年度と同様にドッジボール大会を開催した。 <p>[2025 年度 FD 活動]</p> <p>(1) 新入生歓迎会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営学部ガイドブックを用いたきめ細かな履修指導 学生の視点からの満足度を高めるための企画を学生 FD 委員の参加により実施 <p>(2) よりよい教育の実現を目指した議論</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・学修成果アンケート集計結果をもとに、現況を確認、教育上の課題を検討 ・「学生の学び」において重要となる事項の検討、予算上の措置の再考
現代中国学部	<p>[2024 年度総括]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生及び新入生アンケート <p>2023 年度の学修成果アンケートの回答率は、2024 年度も高く、加えて、学部独自の新入生アンケートを実施し、新入生の全体的傾向の早期把握に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教学活動に関するワーキンググループ <p>「初年次教育グループ」「語学教育グループ」「新しい教育方法グループ」「キャリア教育グループ」の 4 つの FD グループに分かれて、教学活動に関する意見交換の場を持った。各グループの活動報告書は Teams で共有されており、随時他グループの活動内容が把握できるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025 年のカリキュラム改編にむけて、カリキュラムの見なおし、スリム化を検討決定した。 ・入学前教育の見なおし <p>入学前教育課題について、外部専門エージェントの導入も含め、そのあり方と内容について見なおしを行った。また学生の読書習慣を促すことを目指し、課題図書についても教員間で検討を重ね、新たに図書を選定しなおした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代中国学会との連携 <p>現代中国学会主催講演会を開催した。</p> <p>第 1 回：2024 年 7 月 10 日「木下恵介、中国映画、そして日中映画交流」戴周杰氏（木下恵介記念館キュレーター）</p> <p>第 2 回：2024 年 7 月 12 日「李姉妹流、中国語を武器にする方法」講師：李姉妹</p> <p>第 3 回：2025 年 3 月 7 日「旅行記から見る戦後日中関係の諸相」村田雄二郎氏（東京大学名誉教授・同志社大学グローバル・スタディーズ研究科教授）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地プログラムおよび現地調査、現地インターンについて情報共有 <p>2024 年度催行の「現地プログラム」「現地研究調査」「現地インターンシップ」について、引率管理体制の検討を行い、次年度以降の導入に向けて調査と検討を進めた。それらの検討結果は教授会で随時披露され、学部全体で集中的に広くかつ深く議論を行った。</p> <p>[2025 年度 FD 活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生及び新入生のアンケート <p>自己点検・内部質保証委員会が実施する学修成果アンケートの回答率を高め、データの信頼性・妥当性を向上させる。また、本学部の特長的な学修成果を把握するために、学部独自のアンケート（語学系資格取得状況）を継続して実施する。これらのアンケート結果を教授会で共有し、学修成果の把握や意見交換の材料とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教学活動に関するワーキンググループの開催 <p>22 年度より実施している教学活動に関するワーキンググループを 25 年度も引き続き開催する。各グループにおいて課題に対する具体的な対策案についても検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025 年のカリキュラム改編の評価 <p>2025 年新カリキュラムについて初年度の成果を評価・検討し、制度内で可能な限りの改善を模索する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代中国学会との連携 <p>現代中国学会講演会・シンポジウムなどと密接な連携をとり、現代中国に関わる広い知識の獲得・共有をとおして授業改善につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地主義教育の成果検証と新展開の探求 <p>現地主義教育、とりわけ現地プログラムの抜本的改革へ向けて学部全体で検討し、実施可能な段階へ作業を進める。とりわけ現地プログラムの学生派遣配分や引率の改善について速やかかつ確実な態勢構築を行う。</p>

[2024 年度 FD 活動総括]

<英語学科>

- ・2025 年度入学生より実施されるアクティブラーニングを軸とした学修者本位のカリキュラムに関して、学科としての適切な科目設定および各々の科目の到達目標について意見交換し、魅力的な科目の編成に取り組んだ。
- ・1 年次生対象の入門ゼミについて、学科教員の間で学生の状況の把握に努めるとともに、同科目において学生の初年次教育として必要なスキルについて分析した。その結果、本学国際交流課と連携した海外留学に関するガイダンス、本学図書館と連携した図書館利用法、本学キャリア支援課と連携したキャリア支援ガイダンス等、連携授業を積極的に取り入れ、大学生にとって必要な学修スキルの構築に努めた。
- ・入試課からの入試データおよび教務課からの学習状況に関する意見徴収をもとに、学科の教育方針について、学科教員で意見交換を実施した。
- ・学生相談室委員や本学カウンセラーから学生の状況や大学としての対応方法について話を聞き、学科としての適切な対応について意見交換を行った。
- ・注意を要する学生について、学科会議でその学生の情報を共有し、授業運営がよりうまくいくための意見交換を実施した。
- ・一年次に加えて、二年度秋学期末にも TOEIC® L&R の受験を義務化することにより、同試験を学生が自身の英語力を把握するための機会にするとともに、学科としての英語力の把握と教育効果の測定として利用した。
- ・英語スピーキングおよび英語ライティングの授業にコーディネーターを配置し、科目の到達目標を見据えた授業内容の構築を行うとともに、非常勤講師を含む担当教員の連絡を密にし、積み上げ式の学修内容の構築に努めた。
- ・入学前教育の課題として提出された英文エッセイを入門ゼミ担当教員が閲覧し、学生の基礎学力の参考資料として活用した。
- ・留学ガイダンス、後援会総会・父母懇談会、オープンキャンパスなどの各種イベントにおいて、学生が発表する機会を積極的に設けることにより、学生の自立的学修を促すとともに、学生参加型の教育のありようについて、学科教員で意見交換を行った。

<国際教養学科>

- ・注意を要する学生がいた場合、その都度、学科会議において情報共有をし、学生の指導のあり方について意見交換を行った。
- ・2025 年度のカリキュラム改編に向けて、学科のカリキュラムの見直しを着実に実施した。特に英語教育における学修の積み重ねについては、担当教員間で継続的に協議を重ねた。その成果として、次年度よりネイティブの新しい嘱託助教を採用することが決定し、英語教育の質的向上に向けた体制強化が図られた。
- ・「入門ゼミ」では、2025 年度より導入を予定していた新しい電子教材を無事導入した。また、授業の展開や運営方法について、担当者間での意見交換に加え、教科書の販売元とも連携し、複数回にわたってミーティングを実施した。さらに、入学前教育に関しても、ブックレビューや各教科の紹介ビデオの活用について、より効果的な運用を目指して協議・検討を行った。
- ・昨年度に引き続き、在学学生を対象とした学習状況アンケートを着実に実施した。これにより、教育の成果や課題について教員間での問題共有が図られ、今後の教育改善に向けた基礎資料となった。
- ・留学ガイダンス、後援会、オープンキャンパス、K-con などの行事において、学生が日本語や英語でプレゼンテーションを行う機会を着実に増やした。これにより、学生の国際交流への関心を高め、学習への動機付けを継続的に促すことができた。

[2025 年度 FD 活動]

<英語学科>

- ・2025 年度入学生より実施されたアクティブラーニングを軸とした学修者本位のカリキュラムに関して、カリキュラムの到達目標の実施状況について確認する。
- ・1 年次生対象の入門ゼミについて、学科教員の間で学生の状況の把握に努めるととも

	<p>に、同科目において学生の初年次教育として必要なスキルについて分析する。引き続き学内各部局との連携授業を積極的に取り入れ、大学生にとって必要な学修スキルの内容について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試課からの入試データおよび教務課からの学習状況に関する意見聴取をもとに、学科の教育方針について、意見交換を実施する。 ・学生相談室委員や本学カウンセラーからとの連携を密にし、学科としての適切な対応について意見交換を行う。 ・学生に受験を義務づけている TOEIC® L&R について、その結果を学科教員で共有し、学生の英語力の把握と学科としての適切な教育について意見交換する。 ・英語スピーキングおよび英語ライティングの授業にコーディネーターを配置し、科目の到達目標を見据えた授業内容の構築を行うとともに、非常勤講師を含む担当教員の連絡を密にし、積み上げ式の学修内容の構築に努める。 ・入学前教育の課題として提出された英文エッセイを入門ゼミ担当教員が活用し、適切な指導へとつなげる。 ・留学ガイダンス、後援会総会・父母懇談会、オープンキャンパスなどの各種イベントにおいて、学生が発表する機会を積極的に設けて学生の自立的学修を促すとともに、学部のプレゼンテーションコンテスト K-con も含めた学生参加型の教育について検討する。 <p><国際教養学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科会議での学科教育に関する意見交換・情報共有を継続し、連携して逐次課題・問題に迅速に対処できる体制を維持する。 ・「入門ゼミ」では、既に導入された電子教材の活用を一層深化させ、学生の主体的な学びを促す工夫を継続して行う。また、新たにスタートする「教養ゼミ」(2年次)との連携を視野に入れ、初年次教育からの学びの積み上げが円滑に行えるよう、科目間の連動性と学修の一貫性の確保に努める。 ・「入門ゼミ」内でプレゼンテーションのコンペを実施する予定であり、初年度から自らの学びを発信する意識や表現技術を高める機会とする。これを通じて、学部全体の発表会である K-con への参加意欲を喚起し、学びの成果を広く共有する文化の醸成を図る。 ・英語教育においては、学科内での言語運用能力向上を目的とし、新たに着任するネイティブ教員との協働を進める。加えて、学部や大学全体の英語教育と連携する中核的な人材として、2026 年度には新たな教員の採用を予定しており、長期的な教育体制の強化に向けた準備を進める。 ・昨年度同様に、在学生対象の学習状況アンケートを実施し、教育の成果や課題について問題共有を図っていく。
文学部	<p>[2024 年度 FD 活動総括]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ラジオ番組「こちら愛大 ～アイダイ・ど・文学部の時間～」(FM 豊橋)の収録・放送 文学部の教員が自身の研究や教育に関する内容が収録・放送した。 今年度は豊橋校舎のオープンキャンパスに合わせ、一部公開収録を行い、「豊橋キャンパスの歴史」や「文学部の特色」また学生による「大学生生活の魅力」について放送された。さらに各専攻の教員から、自身が行う研究や教育に関する内容を中心とした。放送は 2024 年 8 月から 2024 年 11 月までの全 17 回にわたって行われ、その後、愛知大学公式 HP および文学部公式 HP を通して公開した。 2. 学生生活相談室との懇談 2024 年 9 月 5 日教授会内で以下の懇談会を開催した。 新設された学生生活支援室の尾崎光司氏をお招きして、学生生活相談室の状況や活動について、また春学期から改善が見られた具体的事例などについて紹介があり。それらに基づいて質疑や意見交換が行われ、相互間の連携を深めた。

	<p>3. 人文社会学科と現代に関する研究会の開催 以下のように研究会を開催し、質疑応答が行われ、新たな知見を共有した。 日時：2024年9月19日（木） 16：10～17：20 報告者：横山麻衣准教授（日本語日本文学科） コメンテーター：片岡邦好教授（人文社会学科） タイトル：「性暴力をめぐる偏見の研究 - 理論・方法論の現状と課題について」 参加者：27名</p> <p>4. 各学科・コースにおける取り組み <人文社会学科> 現代文化コースでは、各専攻の教員が定期的に会議を開き、連携・協力して情報を共有し授業を運営した。授業ごとのリアクションペーパーで出された質問や意見を学生の眼前で検討し、授業改善に活かした。また、ネット上で学生の質問や意見を募り、教員がこれを討議し、さらに学生と意見交換をするという、完全双方向の授業も試みている。 社会学コースでは、コース会議等において卒論指導体制やゼミ・実習運営等の情報を共有し、問題の発見及び改善に向けた議論を行った。また注意を要する学生については、学生生活支援室とも連携し、指導を行った。 欧米文化コース現代国際英語専攻では、教材と使用する情報についてインターネット上に最新版を掲載した。またネイティブ教員間で授業改善のミーティングを定期的に行った。 フランス語圏文化専攻では「愛大仏文 2024—履修のしおり」「フランス留学の手引き」などのパンフレットの作成、フランス語カフェ、シネクラブやガレット・デ・ロワ交流会等を開催し、授業への興味・関心を高める活動をした。 ドイツ語文化圏専攻では、ムードルでゼミ間の発表を共有し、学生の関心や理解を深める工夫をした。また、ブレイメンへの留学生のために勉強会や準備説明会を行った。</p> <p><心理学科> (1) 毎週、学科における運営会議を実施し、授業の改善点や学生の学習状況に関して意見を交換し、問題点の改善を図るべく情報の共有や議論を行った。 (2) 「心理学科公開講演会」という学科主催の公開講演会を実施し、教員相互に各専門分野における研究の潮流や新しい研究成果について議論する機会を設けた。これにより各教員の専門分野を横断した知識の共有をはかり、各教員の研究力向上に努めた。2024年度は九州大学から講師をお呼びして、乳幼児のコミュニケーションに関わる認知発達をテーマに議論を実施した。</p> <p><日本語日本文学科> 新学科完成年度に合わせ、授業科目および内容の適切性について、3・4次学生にアンケート調査を行い、今後の検討材料とした。また、3・4年次合同の卒論中間発表会の開催（2024年10月）や『愛大國文』64号(2025年1月)に、新たに学生の卒論を紹介するコーナーを設け、低年次から卒業論文への興味関心を高める工夫をした。</p> <p>[2025年度FD活動] 1. ラジオ番組「こちら愛大 ～アイダイ・ど・文学部の時間～」(FM豊橋)の収録・放送 2. 教育に関する文学部教員と学生生活支援室との懇談会等の実施 3. 人文社会学と現代に関する研究会の実施 4. その他、FD活動の上で必要なことが生じれば、随時対応する。</p>
地域政策学部	<p>[2024年度総括] 2024年度の地域政策学部（以下「本学部」）の学部FD活動は前年度に引続き、(1)本学部の特色を踏まえた教育の実施及び教育成果の振り返り、(2)教学や学生生活にかかる取り組みとの連携、の2点について実施した。</p>

<活動内容>

(1) について、以下の活動を行った。

- ・初年次教育の現状や在り方に関する教員間での議論
- ・学生地域貢献事業企画発表会の開催及び地域貢献事業に関する教員間での議論
- ・「地域貢献論特殊講義」の開講（リレー形式。外部臨時講師の招聘あり）
- ・教授会時に学部創設期から学部教育に関わっている構成員3名から、「学部創設時における学部教育の考え方について」と題した講演を願った（2024年12月12日、2025年1月16日、同年2月18日）。
- ・入学前オリエンテーションの実施（2025年1月11日（土）Zoomによるオンライン形式にて開催。参加入学予定者92名。本学部教員5名、本学部学生13名で対応）。二つの課題（e-learningへの取り組み、課題レポートの提出）。上記課題レポートについては、オリエンテーション後に提出を求め、本学部教員が添削し、「学習法」の授業時に返却。
- ・2024年度着任教員に対してメンターを配置し、本学における職務や教育制度等に関する理解の促進を図った。

(2) について、以下の活動を行った

- ・「学習法」における図書館ガイダンスの実施
- ・「学習法」におけるキャリアプランに関するガイダンスの実施
- ・教授会において、協議・報告事項として「学生生活支援室から合理的配慮の提供について」の案件を挙げ、合理的配慮のための新しい申請フロー（学生の申請、配慮願作成、関係教員に連絡）の確認をした（2024年4月25日開催時）。
- ・教授会に新設の学生生活支援室のコーディネーターを招き、学生生活支援室の取り組みについてレクチャー願った（2024年11月18日開催時）。
- ・教授会に学生相談室カウンセラー及び保健室保健師をお招きして、年間の活動を報告願った（2025年2月27日開催時）。

[2025年度FD活動]

<年度目標>

- (1) 昨年度と同様に、本学部の特色をふまえた教育及び、その教育方法や教育成果等を振り返り、課題を探る。
- (2) 昨年度と同様に、教学や学生生活を支える学内のさまざまな取り組みを知り、連携する。
- (3) 昨年度教授会で取り上げた学部教育コンプライアンス指針の策定について、具体的な検討に入る。

<活動方法>

(1) について

- ① 大学間連携共通教育推進事業を進める中で入学前教育の実施、初年次教育の現状や在り方に関する教員間での議論を行い、改善を図る。
- ② 地域貢献活動の教育的意義についての意見交換を行う。
- ③ アクティブラーニングやPBLの取り組み成果や課題について教員間の意見・情報交換を行う。
- ④ キャリア形成支援に取り組む中で、地域に求められる人材養成のあり方を話し合う。
- ⑤ 学生地域貢献団体やその活動に参加を希望する学生に対し、「地域貢献論特殊講義」を通じて、地域の実情を踏まえながら関係者との活動を行える学習機会を提供する（春学期水曜3限、15回授業）。

(2) について

教職課程センター、学習・教育支援センター、図書館、学生相談室、キャリア支援課、学生課、保健室、学生生活支援室などの担当者各位を教授会に招いての意見交換や、初年次教育の授業時間内において担当者各位からの説明及び学生との意見交換との機会を設ける。

(3) について

教育理念と3つのポリシーを堅持しつつ、今一度学部構成員の共通認識を深めるためには教育目標等の可視化が必要であることから学部内に学部教育に関するコンプライアンス指針の策定を検討する組織を立ち上げ、教授会に提案する。

<p>短期大学部</p>	<p>[2024 年度 FD 活動総括]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育のために、全員必修の「基礎演習」の時間に図書館ガイダンスと語学教育研究室（ランゲージセンター）のガイダンス、本学の建学の理念と歴史を学ぶために東亜同文書院記念センター見学を実施し、実施日時・参加者名・活動内容等を記録して事務局に報告した。 ・学生による授業評価アンケートは、履修者数が少ない科目を例外として、原則的に短期大学部の全科目について WEB システムを使って実施した。春学期は実施 44 科目で設問(1)～(7)の回答平均 3.99、秋学期は実施科 46 科目で回答平均 4.24 となった。 ・カリキュラム改革のために、現状の分析と改善の方法を教授会で複数回検討し、2025 年度カリキュラムを策定した。 ・豊橋学生相談室の担当者を教授会（2 月 27 日）に招いて、統計データに基づき学生の悩み・相談の現状やその対応について報告を聞き、意見交換を行った。 <p>[2025 年度 FD 活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き初年次教育のために、全員必修の「基礎演習」の時間に図書館ガイダンスと語学教育研究室（ランゲージセンター）のガイダンス、本学の建学の理念と歴史を学ぶために東亜同文書院記念センター見学などを実施し、実施日時・参加者名・活動内容等を記録して事務局に報告する。 ・学生による授業評価アンケートは、履修者数が少ない科目を例外として、春学期・秋学期とも原則的に短期大学部の全科目について実施する。 ・教育環境や学生生活の改善・向上を図るため、豊橋学生相談室の担当者を教授会に招いて、学生の悩み・相談の現状やその対応について意見交換する。 ・2026 年度カリキュラムを円滑に実施するための諸課題を教授会にて協議し、新カリキュラムについて情報共有に努める。
--------------	---